

八戸酒造株式会社

青森県八戸市

はばたく中小企業・小規模事業者300社

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

地元産へのこだわり、酒造文化の伝達と 地域文化活動支援、体験型日本酒造りを

同社は1775年初代駒井庄三郎が創業して以来、元代々酒を造り続けてきた。現在、8代目庄三郎は青森県の地酒として県産米と酵母にこだわり、仕込み水は八戸・蟹沢地区の名水を使用した、時代が求める環境と健康に配慮した安全で美味しい酒造りに挑戦している。また、「地域に根ざした造り酒屋」として、地域との連携(蔵見学(同社工場は国の登録有形文化財)、農商連携(契約農家とのコメ作り))を図り営業を展開し、同社清酒「八仙」「男山」は多くの消費者に愛飲されるブランドになっている。

- | | | | |
|----------|---|--------|---------|
| ● 所在地 | 青森県八戸市大字湊町字本町9番地 | ● 設立 | 1998年 |
| ● 電話/FAX | 0178-33-1171/0178-34-1174 | ● 資本金 | 2,000万円 |
| ● URL | http://www.mutsu8000.com/ | ● 従業員数 | 24人 |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 駒井 庄三郎 | | |



需要獲得

サービス

地元産にこだわった製品開発、体験型日本酒造りを実施

地元企業とのコラボによる酒粕、酒を使った商品開発(酒粕ドーナツ、クーベル、粕漬等)。また、酒粕と青森県で産業振興として盛んになっているプロテオグリカンを配合した酒粕バスボムの商品化。青森県南地区の米農家と契約栽培をし連携を強化すると共に、自社田のある八戸蟹沢地区(がんじゃ)にて2009年から一般消費者向けの酒米作りから瓶詰めラベル貼り体験ができる参加型プログラム「がんじゃ自然酒倶楽部」を運営。現在会員数は約300名。青森県内中心に、三沢米軍基地、首都圏からの参加者が増え続けており、リピート率8割以上。



参加型プログラムの田植え風景

こだわりの流通、酒蔵文化の伝達と文化活動支援

卸を通さず、酒販店の直売により相互の意思疎通を図り、製品管理の徹底を行い信頼関係を築いている。また酒蔵をお客様に親近感を持ってもらい、酒文化の魅力を伝えるため酒蔵見学を積極的に行い、訪日観光客など多くの見学者(年間5,000名以上)が訪れている。それと同時に国登録文化財及び景観重要建造物に指定されている煉瓦蔵と土蔵を開放し、地元の文化活動のイベントなどを年間80回以上行っている。他、蔵独自の「新酒を愉しむ会(参加者750名)」、「夏の蔵まつり(約1,000名集客)」、首都圏を中心とした多くの飲食店での「八仙を愉しむ会」等を開催。



蔵の夏まつり風景

海外展開及び訪日外国人観光客への受入れ環境の整備

海外輸出はアメリカが約50%で、他では中国・香港・シンガポール・台湾・韓国・タイのアジア圏が中心。その他オランダ・オーストラリア・ブラジルの計10か国で輸出実績がある。今後は各国需要開拓に加え、ヨーロッパ方面への展開を図っていく。ニューヨーク共同貿易主催のレストランショーやシンガポールでの年に1回のメーカーズディナーを開催している。蔵見学の外国人観光客への受け入れ整備として銘柄や酒蔵の説明資料を作成。



外国人向けのイベント出店の様子